ほ っ と
いっぷく

平泉寺こぼれ話　～第32話～

平泉寺からの出土品です。
これは何でしょうか？

ヒント

①．平泉寺が栄えた中世の頃のものです。
②．L 字形の薄い金属片です。
③．表面に金メッキがされています。
④．縦は 6.9 ㎝、横は 3.6 ㎝、厚みは 1 ㎜です。
⑤．径2㎜の穴が縦に２か所確認できます。
⑥．平成２年度の坊院内の発掘調査で出土しました。

答えは最下段↓

越前禅定道探訪記（えちぜんぜんじょうどうたんぼうき）　その15

三ツ谷丈六神社跡（じょうろくじんじゃあと）

川上御前社跡から白山に向かっては、西俣谷川沿いの道を下る。その道を 500ｍ程進むと右手に大きく山肌が削られた場所が見えてくる（写真中）。ここから下流は、崩れ落ちた土砂が土石流となって下ったため、約２㎞先の三ツ谷集落跡近くまで、川沿いが大きくえぐられ、古道の痕跡は全く無い。

三ツ谷集落と丈六神社跡

三ツ谷は、『平泉寺史要』では、白山十二宿の内の第八宿「秘密谷」として出てくる。ここは古くから小原峠越えで勝山と深く結びついた地域であった。また、杉峠越えで大野市打波や岐阜県郡上市白鳥町とも行き来があったという。しかし、近世に勝山から牛首に至る道が整備されると、谷の奥まった集落になった。さらに昭和９年に市ノ瀬一帯を大風水害が襲い、廃村となってしまった。

三ツ谷集落跡の西俣谷川と中俣谷川の合流点付近には、かつて丈六堂と呼ばれた丈六神社（写真下）があった。大正６年の本殿敷地拡張工事に際しては、室町時代の十一面観音の懸仏（かけぼとけ）が出土し、越前禅定道沿いの重要な宗教施設であったといえる。越前禅定道は、ここから手取川に出て、市ノ瀬に至った。

こぼれ話の答え：　棚やタンスなどの飾り金具と考えられます。

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No. 40 （2012年１月号）

【発　行】　勝山市教育委員会 史蹟整備課
【発行日】　平成24年１月26日
【ご意見・ご要望は下記まで】
電　話：　0779-88-8113(直通)
メール：　shiseki@city.katsuyama.lg.jp

館名板が設置された“まほろば”
（平成 24 年 1 月 19 日現在）

館名板拡大　　題字：山岸正裕勝山市長

今号の内容

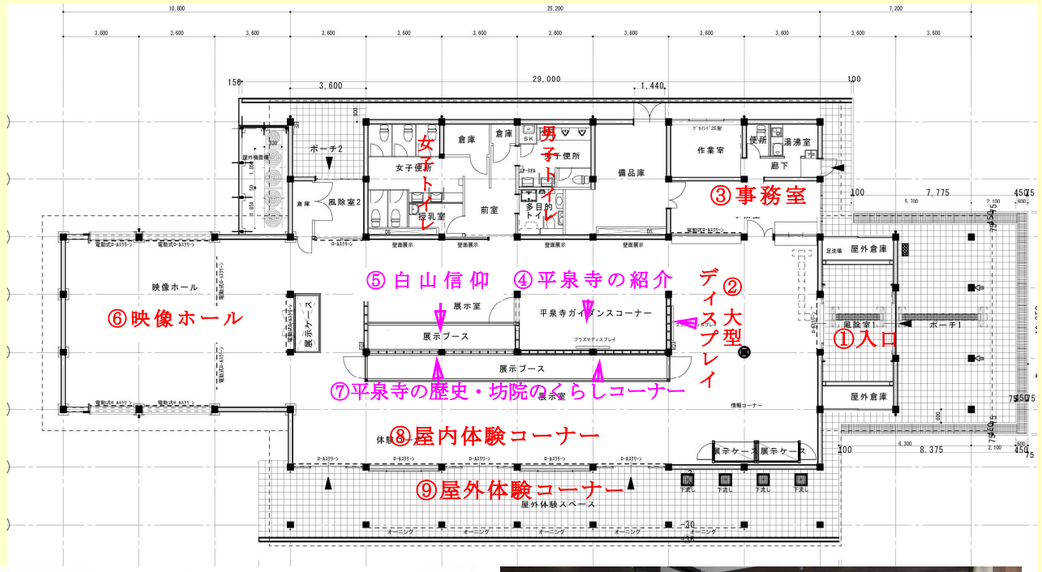
【特集】　ガイダンス施設“まほろば”が完成
－その内部を紹介します－
【連載】　平泉寺こぼれ話　第32話
越前禅定道探訪記　その15

ガイダンス施設“まほろば”が完成

－その内部を紹介します－

昨年末にガイダンス施設の新築工事が完了しました。今月号では、展示工事前の何も無い状態ですが、建物内部の状況をご紹介します。

４月以降に展示工事や外構工事を行い、10 月には施設はオープンする予定です。オープンまで、もう少しお待ちください。



①．ガイダンス入口

③．事務室

②．大型ディスプレイ

入口（写真①）を入ると、まず正面に見えてくるのが、65 型の**大型ディスプレイ**（写真②）です。画面は、縦が約 0.9 m、横が約 1.4 mと大きく、白山や平泉寺の四季の素晴らしい映像などで、来訪者をお迎えする予定です。

また、入って右側には、**事務室**があります（写真③）。ここは、いろんな機器をコントロールする場所であり、施設の心臓部とも言えるところです。事務所と展示室との間には、大きく開口した窓があり、事務室は明るく開放感のある空間となっています。

④．平泉寺の紹介コーナー

⑥．映像ホール

⑤．白山信仰コーナー

⑦．平泉寺の歴史・坊院のくらしコーナー

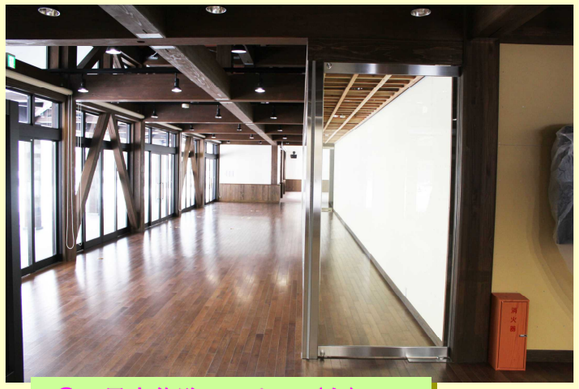
事務所から奥に進むと、**平泉寺の紹介コーナー**（写真④）が見えてきます。ここは、平泉寺の概要をわかりやすく紹介する場所で、テレビやプロジェクターなどを使い、史跡平泉寺の位置や概要、全体像を紹介します。

次に進むと、展示ケースが見えてきます。ここは**白山信仰**について解説するコーナー（写真⑤）です。

さらに奥へ進むと、**映像ホール**（写真⑥）があります。ここは最大 80 名まで収容でき、大型電動スクリーン（縦約 2.5 m、横約 4.5 m）で、平泉寺の歴史や発掘状況を迫力ある画面で見ることができます。

次に白山信仰コーナーの反対側に回り込むと、長さ 14 mにも及ぶ展示ケースが見えてきます。ここは**平泉寺の歴史**や**坊院（僧侶の住居）のくらし**を紹介するコーナー（写真⑦）です。

展示ケースの向かい側は、**屋内体験コーナー**（写真⑧）と**屋外体験コーナー**（写真⑨）になります。実際に昔のモノに触れたり、つくったりすることで、歴史を身近なものとして感じとることができるでしょう。



⑧．屋内体験コーナー（左）

⑨．屋外体験コーナー（右）